



2021.11.23 tue 14:00
at Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

2021.11.24 wed 19:00
at The Symphony Hall

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

Subscription Concert 2021-2022

#156 #6 Osaka

Paul Meyer
Clarinet, Conductor

PROGRAM | プログラム

序曲《ローマの謝肉祭》／H.ベルリオーズ／仲田 守 編

[約9分]

Ouverture du Carnaval Romain / Louis Hector Berlioz / arr. Mamoru Nakata

クラリネットのための軍隊協奏曲 Op.6／C.バールマン／大橋晃一 編

[約25分]

Militär = Konzert für die Clarinette op.6 / Carl Bärmann / arr. Koichi Ohashi

第1楽章 Tempo di Marcia

第2楽章 Andante Maestoso – Adagio

第3楽章 Allegro vivo

クラリネットのための第1狂詩曲／C.ドビュッシー／稲垣卓三 編

[約8分]

Première Rhapsodie (for Clarinet and Wind Ensemble) / Claude-Achille Debussy / Takuzo Inagaki

休憩 Intermission [20分]

交響曲 第3番《オルガン付き》／C.サン・サーンス／大橋晃一 編

[約35分]

Symphonie No.3 ut mineur op.78, avec orgue / Charles Camille Saint-Saëns / arr. Koichi Ohashi

オルガン：新山恵理 Eri Niiyama, Organ

第1部〈前半〉 Adagio – Allegro moderato

第1部〈後半〉 Poco Adagio

第2部〈前半〉 Allegro moderato – Presto – Allegro moderato – Presto

第2部〈後半〉 Maestoso – Allegro

！ 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますので配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の《【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関する
アンケートへ
ご協力ください。



PROFILE | 指揮者・ソリスト プロフィール



名実共に世界のトップに立つクラリネット奏者。1965年アルザス生まれ。13歳でソリストとしてデビュー。パリ高等音楽院とバーゼル音楽院で学ぶ。フランス国内外のコンクールで優勝後、84年NYデビュー。ベニー・グッドマンに出会い親交を結ぶ。以来世界有数のソロ・クラリネット奏者として活躍。協奏曲のレパートリーは約100曲もの数にのぼり、完璧な技術とずば抜けた音楽性、品のある豊かな音色を併せ持つ天才クラリネット奏者として、ベリオ、ペンデレツキを始めとする数多くの作曲家達から曲を捧げられ、初演も多い。室内楽でも活発な活動を行っており、クレメール、ヨーヨー・マ、デセイ、ピリス、ロストロポーヴィチ、スターン、バシュメット、パユ等世界一流のソリスト達、及び、エマーソン、ハーゲン、東京クワルテット等の弦楽四重奏団とも共演。パユやオーボエのフランソワ・ルルー等、現代最高のフランスの木管奏者達とアンサンブル、「レ・ヴァン・フランセ」を結成し、絶賛されている。デンオン、CBS、エラート、BMGファンハウス他多数のレーベルでCDが発売され、その中にはギドン・クレメールとのピアノソナタ(ECM／ノンサッチ)、プーランクの室内楽(BMG)、ジョン・ミョンフン、ギル・シャハム、ジャン・ワンとのメシアンの「世の終わりのための四重奏曲」(ドイツ・グラモフォン)、ピアノのエリック・ル・サージュと録音したライネッケ、メンデルスゾーン、ヴェーバー(デンオン)及びブラームスのクラリネット・ソナタ(BMG)等がある。著名なクラリネット奏者として活躍する一方、指揮者としてのキャリアも急速に築きつつある。これまでに、フランス国立放送フィルを始めとするヨーロッパ各地の主要オーケストラ、台北交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等を指揮。ルイスザダのモーツァルト及びハイドンの2枚のCDのほか、ミヨーの協奏曲集のCDでも指揮者を務めている。ソウル・フィルハーモニー交響楽団の准首席指揮者を経て、2010年～2012年12月東京佼成ウインドオーケストラの首席指揮者を務めた。2019/20シーズンにはマンハイム・プファルツ選帝侯室内管弦楽団の首席指揮者に就任。

〔使用楽器：ビュッフェ・クランボン Divine & Tradition〕 オフィシャル・ホームページ：<http://www.paulmeyer.fr/>



オルガン 新山恵理 Eri Niiyama, Organ

東京藝術大学音楽学部オルガン科卒業、同大学院修了。仏・リール国立音楽院では満場一致の一等賞を得て同音楽院を首席で卒業。その後もヨーロッパの各国際アカデミーにおいて研鑽を積む。歴史的な楽器でのコンサートに出演して好評を博し、18世紀に建造された楽器の修復記念演奏会にも招待されている。ソロ演奏会のほか、各オーケストラでのオルガンを担当、またソリストとして出演。合唱団との共演やNHK-FM「朝のバロック」、NHKテレビ「名曲アルバム」等に出演。レクチャー・講習会にも取り組んでいる。東京芸術劇場、アクトシティ浜松副オルガニスト。

PROGRAM NOTES | 曲目解説 — 富樫鉄火 (音楽ライター)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

H.ベルリオーズ／仲田 守 編 序曲《ローマの謝肉祭》

《幻想交響曲》で知られるフランスのエクトル・ベルリオーズ(1803～1869)は、感情過多で激しい性格の持ち主だった。音楽も常に壮大なスケールで、大音響、大編成、派手な曲想が多かった。また、多くの評論や、改訂・改変などで、ひたすら自分を認めさせようとする執拗な面もあった(女性への想いも同様で、ふられてもどこまでも追いかけ、あまりに揉めて殺人まで起こしかけた)。

彼は1838年に、イタリア・ルネサンス期の彫刻家を主人公とする歌劇《ベンヴェヌート・チェッリーニ》を初演したが、評判は芳しくなく、数回で上演中止となった。だがこんなことで引き下がるベルリオーズではなかった。まず、本来、このオペラで使用するはずだったアリアをもとに、ヴァイオリンと管弦楽のために《夢とカプリス》を書く。さらに、オペラ中のカーニヴァルの音楽を中心に抜粋・再構成し、コンパクトな(しかし派手な)演奏会用序曲に仕立て直した。それがこの《ローマの謝肉祭》である。

初演は1844年。しっとりした序奏部を経て、ひたすら明るくにぎやかに展開する曲で、初演は大成。いまでは《幻想交響曲》などとならぶ、ベルリオーズの代表作として定着している。

なお、肝心の歌劇《～チェッリーニ》は、序曲だけは演奏されるものの、ほぼ忘れられた。だが近年になって再評価され、いまでは世界中で上演され、録音も多数出る人気作品となっている。結局、ベルリオーズは“勝った”のだ。本曲は、まるで、そのことを予告する凱旋曲のおもむきさえ感じられる。

本日は、TKWOで長くサクソフォン奏者をつとめ、現在では指揮者・編曲者としても活躍中の、仲田守の編曲譜で演奏される。

余談だが、原曲の主人公、ベンヴェヌート・チェッリーニ(1500～1571)の波乱の生涯は、多くの芸術家に刺激を与えた。そのなかには、後年の1890年に《アスカーニオ》と題して、ふたたび同人物をオペラ化したひともある。本日、後半で登場する大作作曲家、サン・サーンスである。

C.ペールマン／大橋晃一 編 クラリネットのための軍隊協奏曲 Op.6

クラリネットは、民族楽器のシャリュモーなどから発展して18世紀に誕生した比較的新しい楽器だが、19世紀に入ってからキイや音域などの改良が急速に進んだ。

そのころ、ヨーロッパ中をツアーでまわって大人気となった、クラリネット奏者のドイツ人父子がいた。父ハインリヒ・ヨゼフ・ペールマン(1784～1847)と、息子カール・ペールマン(1810～1885)である。特に父ハインリヒは、軍楽隊を経てベルリンの宮廷楽団に雇われ、驚異的な演奏を披露した。現在のクラリネット演奏法は、彼が定着させたものが多いといわれている。

そして、当時の大作作曲家たちが、次々と彼のために曲を書いた。たとえばウェーバーの《クラリネット五重奏曲》や、2つの《クラリネット協奏曲》など、彼のクラリネット曲は、ほとんどがハインリヒのために書かれている。

その息子カールも、父のもとで名奏者となった。この父子の共演は、かつてのモーツァルト父子のような人気を博したよ

うで、メンデルスゾーンの《クラリネットとバセットホルンのためのコンツェルトシュトゥック》第1番と第2番は、この父子共演用に書かれた名曲である。

さらにこの父子は、作曲も多く手がけた。特に息子カールは、父の教えをもとに、クラリネットの練習曲集《完全なるクラリネット演奏法》Op.63、64をまとめた。これはいまでもクラリネットを学ぶ学生の間で知られる名テキストで、日本の楽譜店にも置かれているロングセラーである。

そんな息子カールが大量に書いた協奏曲のひとつが、本曲。たいへん珍しい曲で、正確な出自は不明だが、1861年作曲との記録があるので、父の死後、カール自身が、おそらく宮廷楽団か軍楽隊と共演するために書いたと思われる。出版譜はピアノ伴奏譜だが、ベルリン州立図書館に管弦楽版の写譜が所蔵されている。

コンパクトながらⅠ)Tempo di Marcia、Ⅱ)Andante Maestoso - Adagio、Ⅲ)Allegro vivoの古典的な3楽章構成で書かれている。さすがに当時のトップ奏者が書いただけあり、高度な演奏技術が要求される難曲である。

本日は、大橋晃一による吹奏楽版の新編曲初演。ピアノ伴奏譜をもとに編曲されているので、ほとんど“再創造”といってもいい画期的なスコアである。名手メイエによる“吹き振り”とともに、この秘曲をじっくりと味わいたい。

なお、カールには、同名の子、カール・ペールマン(1839～1913)がいた。この三代目はアメリカでピアノ教師となっており多くの弟子を育てた。そのなかで、もっとも大成したピアニストがジョージ・コーブランド(1882～1971)で、彼がさかんに演奏してアメリカに紹介した作曲家が、友人でもあったドビュッシーである。

C.ドビュッシー／稲垣卓三 編 クラリネットのための第1狂詩曲

フランス印象派の巨匠、クロード・ドビュッシー(1862～1918)が、パリ音楽院のクラリネット実技試験のために書き、1910年夏の試験で採用された「課題曲」。当初はピアノ伴奏曲だったが、翌年、ドビュッシー自身の手で管弦楽版も書かれた。

曲名に「第1」と付いているが、結局、この1曲しか書かれなかった。「第2」がない理由は、いまでもよくわかっていない。

学生用にしてはとんでもなく難しい曲で、ドビュッシー独特のモヤモヤした曲想で満たされている。転調やリズムの変化も多く、クラリネットが、なにかを必死で語りかけているように聴こえてくる魅力的な曲である。《牧神の午後への前奏曲》(1894年初演)を思わせる雰囲気もあり、小曲ながら人気がある。

本日は、TKWOの元コントラバス奏者で、多くのクラシック名曲を吹奏楽版に編曲した稲垣卓三のスコアに、これもメイエが“吹き振り”で挑む。

なおドビュッシーは、本曲を作曲した20歳代後半の時期、「国民音楽協会」に加入し、新時代の音楽を生み始めていた。だが、先輩たちのなかには、彼の新しい音楽を理解できず、徹底的に嫌う守旧派も多かった。その急先鋒が、同協会の創設者サン・サーンスだった。

C.サン・サーンス／大橋晃一 編 交響曲 第3番《オルガン付き》

誕生の経緯

「交響曲」は、フランスではなかなか名曲が生まれなかった。ベルリオーズの《幻想交響曲》はあったが(1830年初演)、これは内容・形式ともにあまりに独特で、やはり本場ドイツ・オーストリアにはかなわなかった。ハイドン、モーツァルト、

ベートーヴェンをしのぐ交響曲は、もうフランスからは生まれぬ——とさえ思われていた。

これに果敢に挑んだのが今年、没後100年のカミーユ・サン・サーンス(1835～1921)で、未完まで含めると、7曲の交響曲を書いている(番号付きは3曲)。ところが、このうち6曲が20歳代半ばまでに一挙に書かれている(なにしろ神童だったので、最初に交響曲に手を付けたのは13歳のときだった)。どれも意欲作だったが、やはり「若書き」の様相は拭えなかった。

ところが、交響曲への挑戦をやめたとたん、サン・サーンスは、他分野で圧倒的な名曲を次々と生むようになった。複数のピアノ協奏曲やヴァイオリン協奏曲、《序奏とロンド・カプリチオーソ》、交響詩《死の舞踏》、歌劇《ヘンリー八世》《サムソンとデリラ》、《アルジェリア組曲》……名曲を次々と書いた。

この間、普仏戦争(1870～1871)でドイツに敗れ、意気消沈していたフランス国民を鼓舞しようと、「国民音楽協会」を設立。のちにフランク、マスネ、フォーレ、ラロ、ビゼー、デュカス、ドビュッシー、ラヴェルなど、錚々たる作曲家が加盟して同会で名曲を発表する。サン・サーンスは、フランス楽壇のボス的存在となった。

そして1886年、51歳になったサン・サーンスは、音楽史にのこる決定打を2曲生む。組曲《動物の謝肉祭》と、本日の交響曲第3番《オルガン付き》である。交響曲は26年ぶりだったが、サン・サーンスの作曲技術は円熟の域に達していた。

これは、ロンドン・フィルハーモニック協会の委嘱で書かれたもので、1886年5月に、作曲家自身の指揮で、ロンドンで初演された。翌年1月にはパリ初演。サン・サーンス自身が名オルガニスト・ピアニストだっただけに、管弦楽にオルガンとピアノ(2手または4手)を加え、独特の響きを生むなど、まさに彼でなければ書けない曲だった。もちろん初演は大成功。圧倒的な評価を得て、サン・サーンスは「フランスのベートーヴェン」とまで称えられた。

曲の構成

スコア上は〈第1部〉〈第2部〉の2部構成だが、各部が明確に〈前半〉〈後半〉に分かれており、事実上、古典的な4楽章構成の交響曲と見ることができる。全体に循環形式が用いられており、前に登場した旋律が形を変えて再登場したり、また、あとで重要となるフレーズの断片が“予告編”のようにチラリと先に顔を見せたりと、凝ったスコアリングが続出する。

第1部〈前半〉

ハ短調。ほぼソナタ形式で書かれている。序奏がAdagioで密やかにじまると、すぐにAllegro Moderatoの主題提示部となり、スピーディーな曲想となる。弦楽器[原曲]と木管楽器が16分音符の細かいパッセージを奏で(ずれているような不思議な効果を生む書き方)、その上に、上昇音型の主題が重なる。

その後、展開部となって転調を繰り返し、再現部で冒頭を回想、次第に鎮まってコーダ部となり、〈前半〉は静かに終わる。フェルマータ付きの全休符で一段落する。

第1部〈後半〉

変ニ長調。4楽章構成の緩徐楽章にあたる。さっそくオルガンが登場するが、Poco Adagioのppで、ひっそりとはじまるので、あまり目立たない。だが、よく聴くと弦楽器[原曲]や木管楽器とともに、讃美歌を奏でているようでもある。サン・サーンスが、フランス最大の“オルガン教会”マドレーヌ寺院の奏者だったことが思い出される。

この楽章は、一種の変奏曲でもある。いくつかの美しいフレーズが、少しずつ形を変え、フーガのように繰り返される。坦々と進行し、冒頭の再現を経て、オルガンの落ち着いた響きを背景にコーダ部となり、またも静かに曲を終える。

第2部〈前半〉

ハ長調。4楽章構成のスケルツォ楽章にあたる。弦楽器[原曲]がAllegro Moderatoで激しいパッセージを

奏で、ティンパニやコントラバスが呼応する。

Prestoの中間部になると、ピアノ(2手)が登場し、全体が華やかな響きに包まれる。旋律楽器でも伴奏楽器でもない、まさに“華麗な装飾”としか言いようがないピアノの使い方、このあたりから、サン・サーンスのテクニックが尋常でないことが、次第に明らかになってくる。

ふたたびAllegro Moderatoで冒頭を再現すると、もう一度Prestoとなってパワフルなコーダ部に入る。いままで、すべてが静かに終わっていただけに、今度こそは力強いクライマックスになるかと思いきや、次第に鎮まって、またもひっそりと幕を閉じる。聴衆としては、いささか欲求不満気味になる部分だ。そして、またもフェルマータ付きの全休符で曲は一段落。しかしこの直後、とんでもないことが起きる。

第2部〈後半〉

ハ長調。Maestosoの冒頭部で“大爆発”するのは、オルガンである(よくコンサートで、居眠りしていたひとがピクッと目を覚ますところだ)。オルガンに驚いていると、ふたたびピアノが登場し、シャンデリアのような豪華絢爛な響きを聴かせてくれる。しかも、前は「2手」だったのに、今回は「4手」[原曲／ただし2手でも可]。その輝きは倍増されている。

この楽章もソナタ形式である。壮大な序奏を経て、Allegroの提示部に入ると、フーガがはじまる。実はこのフーガ主題は、序奏部で登場した旋律の変形である。それゆえ、聴衆は、“前にどこかで聴いたような……”と感じる。それが次々とフーガを形成し、繰り返され、聴衆の耳に残る仕掛けだ。スピーディーな展開部や再現部を経て、まるで凱旋行進曲のような壮大な曲想となって、いよいよ全曲のラストであるコーダ部に入る。

ここでサン・サーンスは、イタリア語ではなく、わざわざフランス語で「Sans Presser」(急がないで)と書き込んでいる。演奏者に“冷静になりなさい”と言っているようである。ここから最後まで、スコアにはさまざまな指示が書き込まれており、いかにサン・サーンスが、このクライマックスにエネルギーを注いだかが察せられる。ラストはオルガンとともに、まるで大宇宙が鳴動するような、すさまじい音楽が展開して全曲を終える。

まさにこのクライマックスで、フランスは、交響曲の新しい扉を開いたのである。現にこのあと、フランクをはじめ、多くのフランス人作曲家が「交響曲」に挑むようになるのだ。

編曲について

本曲は、いまままでに内外で数種類の吹奏楽編曲が出ており、むかしから吹奏楽界でも人気のある曲だった。いちばん有名なのは、マーク・ハインズレイ版だが、最終部分(第2部後半)のみの編曲が多い。

イギリスの人気作曲家、フィリップ・スパークは、ブラスバンド／吹奏楽曲《サン・サーンス変奏曲～オルガン交響曲の主題による交響的変容》を作曲している。これも主として第2部後半を素材として書かれており、原曲の響きがほぼそのまま再現される。

本日の編曲は、おなじみ大橋晃一による新編曲初演。可能な限り、原曲に近い響きを再現するための工夫がなされており、もちろん、オルガンやピアノなども、そのまま使用されている。ホルネットやソプラノ・サクソフォンなども加えた大型編成である。

関心事のひとつは、第1部〈前半〉の主題部で、弦楽器[原曲]が、ほとんど休みなしでえんえんと奏でる16分音符の細かいパッセージを、吹奏楽でどう表現するのか——ではないだろうか。このあたりは、本日、実際に聴いていただければわかるが、この編曲はいうまでもなく、TKWOに“あて書き”されている。別の言い方をすれば、TKWOでなければ演奏できないように編曲されているのである。よって、アマチュアも対象とした過去の多くの編曲とは、まったくくちがう響きなので、そのあたりをじっくりとお楽しみいただきたい。

※楽器編成の記述は、オリジナル・スコアに基づいており、本日の演奏では変更になることもあります。

〈敬称略〉

PROFILE | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
正指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク

首席客演指揮者 …… 飯森範親
ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮・クラリネット …… ポール・メイエ
オルガン …… 新山恵理
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolos …… 丸田悠太(Flute)	Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、 本間千也 [*] 、河原史弥、川村大
Flutes …… 前田綾子、西岡あかね	Horns …… 上原宏、堀風翔 [*] 、小助川大河、 古谷幸子
Oboes …… 宮村和宏 [*] 、桜田昌子	TenorTrombones …… 今村岳志 [*] 、石村源海
EnglishHorn …… 高橋鐘汰	BassTrombone …… 佐藤敬一朗
Bassoons …… 福井弘康、廣幡敦子	Euphoniums …… 岩黒綾乃、齋藤充
ContraBassoon …… 大内洋介	Tubas …… 近藤陽一、本間雅智
Clarinet in E b …… 松生知子	Contrabasses …… 前田芳彰、稲垣理有
Clarinets in B b …… 小倉清澄、大浦綾子、林裕子、 太田友香 [*] 、亀居優斗、 小野寺緑、草野裕輝(AltoClarinet)、 徳武敦、野田祐太郎(BassClarinet)	Timpani …… 坂本雄希 [*]
AltoClarinet …… 瀧本千晶	Percussion …… 秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、 久米彩音、定成庸司
BassClarinet …… 有馬理絵 [*]	Harp …… 片岡詩乃
ContraBassClarinet …… 原浩介	Pianos …… 小笠寺美樹、白石准
AltoSaxophones …… 田中靖人(SopranoSaxophone) [*] 、 林田祐和、完戸吉由希	
TenorSaxophone …… 松井宏幸	
BaritoneSaxophone …… 板尾克樹	

名誉楽団長 …… 庭野光祥
楽団長 …… 林總太郎
佼成文化協会長 …… 菅野泰正
コンサートマスター …… 田中靖人
副コンサートマスター …… 宮村和宏
インスペクター …… 堀風翔
企画委員 …… 原浩介

マネージャー …… 遠藤敏、井小萩浩之
ステージマネージャー …… 今井慎吾、勝川本久
ライブラリアン …… 羽田紀子
制作 …… 久保慶恵
パーソナルマネージャー …… 富田真里那
総務 …… 牧野正純、佐原由起、勝川本久
広報 …… 遠藤敏、荻沼美帆、今村俊博
チケットサービス …… 荻沼美帆
庶務 …… 出塚和良、小野寺龍一、石川済
経理 …… 水本孝枝

Gold Members

サポーターズクラブゴールド会員(3口以上)の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2021年10月31日現在)

アシストジャパン	永瀬 敬至	古沢 秀明
佐々木 潤	平山 博通	横田 陽一
中江 亮	ピロッタ真緒	

PR Supporters

PRサポーターの皆さま

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

店舗等一覧

敬称略で掲載させていただいております。(2021年10月31日現在)

アルル音楽教室	(株)池袋音楽学院
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター	(株)CAFUAレコード
ブレーン(株) 広島本社	吹奏楽webマガジン「Band Power」
ブレーン(株) 東京支社	吹奏楽専門ショップ「Band Power」
(株)管楽器専門店ダク	大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ミュージックスクール「ダ・カーポ」	ドレミファクトリー
(株)セントラル楽器	フルート専門店テオバルト
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎	アトリエ・エム株式会社
管楽器雑貨専門店pitch	イシバシ楽器 横浜店
ザ クラリネット ショップ	フォルテ・オクターヴハウス
新潮講座・神楽坂教室	葡萄房 by THE CAMEL
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京	やしろ食堂
(株)永江楽器水戸	吹奏楽酒場「宝島。」
野中貿易(株)	金寿司
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店	フローリスト花六
宮地楽器 小金井店 ANNEX	中華 大枡

個人のお客様

渡邊 直子	樫野 哲也
-------	-------

PR
サポーター
とは?

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか?

ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)
ご協力頂ける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

好評
販売中!



定価:3,080円(税込/本体2,800円+税)

四六判(本文132mm×191mm)/丸背厚表紙/384頁
ISBN 978-4-10-910188-2

世界中の音楽愛好家へ捧ぐ完全永久保存版!

東京佼成ウインドオーケストラ60年史

世界に誇るスーパーアンサンブル集団のすべてが凝縮
いま初めて紐解かれる、秘められた驚愕のエピソード
1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。



全国有名書店、
および東京佼成ウインドオーケストラ事務局で
お求めいただけます。

◀詳細はオフィシャルサイトをご確認ください。

結成3年目、第1回定期演奏会の模様。
1963(昭和38)年3月10日、杉並公会堂
にて。指揮は、創設者のひとり、河野貢
造・副楽長。この日は、ロッシーニ《セビ
リヤの理髪師》序曲、チャイコフスキー《ス
ラブ行進曲》などが演奏された。



Tokyo Kosei Wind Orchestra

賛助会員

東京佼成ウインドオーケストラは2022年4月1日より、
「一般社団法人 東京佼成ウインドオーケストラ」へ生まれ変わります。
このたび法人化にあたり賛助会員制度が発足します。
今後も音楽文化の発展に貢献する活動を行い豊かな社会を実現するため、
趣旨にご賛同いただける多くの皆様からの継続的なご支援が必要です。
賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

会員募集中

2021年11月1日より
受付開始

個人	賛助会員	維持会員	特別会員
年会費	3,000円/1口	10,000円/1口	100,000円/1口
特典内容	—	公式サイト・定期公演 プログラムご芳名掲載、 お礼状送付	公式サイト・定期公演 プログラムご芳名掲載、お礼状送付、 全定期公演各回1名分招待

法人	賛助会員	維持会員	特別会員
年会費	100,000円/1口	300,000円/1口	1,000,000円/1口
特典内容	公式サイト・定期公演 プログラムご芳名掲載、お礼状送付、 全定期公演各回2名分招待	公式サイト・定期公演 プログラムご芳名掲載、お礼状送付、 全定期公演各回4名分招待	公式サイト・定期公演 プログラムご芳名掲載、お礼状送付、 全定期公演各回10名分招待

※会員期間：会費納入翌月より1年間 ※第157回定期演奏会（2022年2月26日）も対象となります。
※口数による特典の変更はございません。

お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当

〒166-8537 東京都杉並区和田2-11-1 FAX: 03-5341-1255 MAIL: patronage@tkwo.jp



TKWO オリジナルグッズ好評販売中!

Original goods

新商品
登場!

ほかにも多くの商品をご用意しております。
ご購入・詳細はこちら



右肩部分

新オリジナルTシャツ

各1着 2,500円(税込)

会場限定／各1着 2,300円(税込)



オリジナルブラボータオル

1枚 1,700円(税込)

会場限定／1枚 1,500円(税込)

◎サイズ: 34×86cm ◎素材: 綿100% 今治産

国内で生産された今治産タオルに「BRAVO」がプリントされています。

Tokyo Kosei Wind Orchestra



会員募集中

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポートーズクラブ

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)はあなたのウインドオーケストラです!!
TKWOをもっと身近に感じて応援する仲間になりませんか?
サポートーズクラブに入会して、もっとTKWOの音楽を
より多くの皆さんに届けられるように活動を支えてください!

詳細はこちら



TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

第157回 定期演奏会

献呈序曲／C.ウィリアムズ
アルメニアン・ダンス Part I, II／A.リード
TKWO委嘱作品(世界初演)／長生 淳
交響曲 第1番「アークエンジェルズ」／F.チェザリーニ

2022
26 SAT 開演:14:00
(開場:13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール



指揮
飯森範親
(首席客演指揮者)

チケット：S席¥6,000 A席¥4,500 B席¥3,500 C席¥1,500

※各種割引あります。詳細はオフィシャルサイトをご確認ください。

発売日：【会員先行】2021年12月15日(水)
【一般発売】2021年12月22日(水)

※会員先行は定期会員・サポーターズクラブ会員が対象

©Atsushi Yokota

©山岸伸

TKWO新時代を担う、
熱き新マエストロ登場！

課題曲コンサート2022

曲目 2022年度
全日本吹奏楽コンクール課題曲(全曲)ほか

チケット 一般／3,000円
学生(高校生以下)／2,000円

発売日 【会員先行】2021年12月15日(水)
【一般発売】2021年12月22日(水)
※会員先行は定期会員・
サポーターズクラブ会員が対象

2022年
2月17日(木)

開演:19:00(開場:18:00)

@東京オペラシティ コンサートホール



指揮：
大井剛史(正指揮者)

©Atsushi Yokota

主催

佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ
ザ・シンフォニーホール(11/24)

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

日本コロムビア株式会社

株式会社テレビマンユニオン

公益財団法人としま未来文化財団

(以上11/23)

<https://www.tkwo.jp/>

